

# おたがいさまの市民力

日々のかかわりが、

阪神・淡路大震災があった後、何に助けられたのでしょうか？

それは、人と人とのつながりでした。

日頃のあいさつやご近所のおつきあいや声かけが

いざというときの地域のセーフティネットになります。

つながりが自分にとってのセーフティネットであるとともに

相手にとってのセーフティネットになります。

東日本大震災  
被災地から

ひとりひとりが、幸せになるために「**ま<sup>ち</sup>での力**」

佐野 ハツノさん(いいたてカーネーションの会 代表)

原発事故の発生によって、遠く30km圏外にある飯館村は全村避難させられ、未曾有の事態に陥りました。農業を基幹産業としていた村では、牛を飼っていて、餌やりも含め、家族の全員がすんなり家を離れる訳にはいかずに、幼い子どもを持つ若い層の家族から避難しました。比較的年齢層の高いお年寄りが残り、若い家族を守った訳です。

7月末に仮設住宅完成とともに、ほぼ村全域の地区から入居しましたが、115戸のうち48戸が70歳以上の独居となりました。

今まで大家族の中にいたお年寄りが独りぼっちになり、精神的に減入り病気になってしまいました。ある人は村に戻りたい一心でさ迷い歩く認知症。ある人は死にたいと泣きじゃくるうつ病。そんな人たちを助けなければとの想いから、ダンスに眠っている着物を支援していただき、リメイクする手仕事の提案をし、「いいたてカーネーションの会」を立ち上げました。

始めは教室から、今ではお陰を得て、百貨店で作品販売会コーナーを開設していただいています。

80歳代、70歳代のおばあさんたちが想像も出来なかった手仕事の展開になりました。カーネーションの会の皆さんは、今ではとても元気になり、目に輝きが出て、顔は引き締まってきて、以前の村に住んでいた頃の人たちに戻りました。仕掛け人として管理人として、とってうれしいです。経費と縫い賃などをお支払いすると利益はほとんど無いのですが、“もうけ”はいいたてカーネーションの会の皆さんが元気になれたこと！です。これからもずーっと元気で村に帰っても続けようとお互い生きがいにしています。

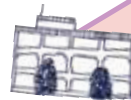
(佐野 ハツノさんプロフィール)

飯館村主催の女性海外派遣事業「若妻の翼」第1期生。全国初の女性農業委員会長を務めた。東日本大震災後、仮設住宅管理人として、被災した女性たちと古着を再利用した「ま<sup>ち</sup>でい着」を製造、販売。高齢女性の意欲と元気を取り戻すことに貢献。2012年度女性のチャレンジ賞特別部門賞受賞。2011年宝塚市男女共同参画センターフェスティバル「震災を考える～男女共同参画の視点から」講師。

ま<sup>ち</sup>でい:「ゆっくり、ていねい」という意味の福島県北部の方言

地域の行事や  
イベントを大切に

情報収集発信



日頃の近所  
おつきあい



防災に女性の力を！みんなの力を！

池澤 径子さん

(宝塚市総務部人権平和室人権男女共同参画課)

防災は、男性や専門家にまかせておけばいいと思いませんか？

災害はいつ起こるかわかりません。「誰かにおまかせ」では、助かる命も助からないかもしれません。女性、男性、子ども、お年寄り、障がいをもつ人、誰もが、災害時に生きのびるために「自分にできる防災」を考える必要があります。

また、阪神・淡路大震災や東日本大震災では、女性へ配慮が行き届かず、多くの女性が我慢を強いられました。当然のように、女性たちには何十人の炊き出しが割り当てられ、一日中、食事の用意や後片付けに追われるなど、固定的性別役割が更に強化されました。女性は、人間関係の調整役を担い、うまくできないと責められました。「女性は家も仕事も失っていない。被災者ではない。」と言われ心を痛めたとの報告もあります。生きぬいた命、みんな自分らしく生きたい！そのためには、日頃から意思決定の場に参画することが重要です。女性の生活者としての視点、豊富な人脈は、地域の防災力をより活性化します。今こそ、女性の力を。そしてみんなの力を。